

楽しく見て、考えさせられた 人形劇「ややこし おばけ」 —ねぎぼうずSAYO— '96 市民ひゅーまんセミナー

……9月から5回にわたって行ないました「'96市民ひゅーまんセミナー」では、のべ400名にのぼる参加者のもと、さまざまな課題をフィールドワーク、人形劇、映画、講演を通して学習しました。その中から、9月21日に行った人形劇「ややこし おばけ」を紹介します。

〈演じた人のこえ〉

◆さまざまな意識をもつわたしたちが、長い長い討論の末にできた人形劇。部落問題を考えるのに笑っていていいの、などと堅いことをいわず、どうぞ楽しんでください……。



〈見た人のこえ〉

◆手段が人形劇、テーマが部落問題。分かりやすく、良かったです。高槻からきた甲斐がありました。
◆ここまで言ってしまうといいのかと最初は思っただけ、まず、知ることから始まるし、とことん話して自由にならないと、問題は解決しないと思った。

地区活動をこなふうに ～実務編～



岸一地区委員会が7月に実施した「天までとどけ心の輪～きしべふれあいひろば～」の地区活動を例にとります。まず、推進委員の中から企画委員を選び、推進委員や市民の人権啓発課題を集約・検討しました。4回の企画会議で、地区活動の企画案作りをはじめ、地域へのPRやおもな組織への参加よびかけなどの作業が進められました。岸二地区委員会との共催だったので、合同の会議を開き推進委員全体で仕事の分担なども含め決定すると共に、人権協事務局に地区活動計画書が出されました。活動担当者会を組織され、実務準備会を3回にわたって持ちました。当日、青少年解放センター運動広場と解放会館に多くの参加者を得て地区活動が行なわれました。後日、地区活動報告書をもとに、事務局と補助金の清算や写真などの記録をだされ、地区活動の実務が終了しました。

施設紹介 リバティおおさか 大阪人権博物館



〒556 大阪市浪速区浪速西3-6-36 TEL.(06)561-5891
〔交通〕 JR環状線「芦原橋駅」下車、南へ徒歩8分
JR大和路線「今宮駅」下車、西へ徒歩15分
大阪市バス「浪速西3丁目」バス停下車、西へ徒歩2分
南海汐見橋線「木津川駅」下車、東へ徒歩6分

■リバティおおさかへ行ってみませんか…

リバティおおさかは、部落問題、女性問題、民族問題、障害者問題、環境問題など人権に関する歴史資料を収集・保存・公開し、人権思想の普及と人間性豊かな文化の発展に貢献することを目的としています。

- ◆開館時間 10:00～17:00
(ただし、入館は16:30まで)
- ◆休館日 毎週月曜日(ただし、祝日はのぞく)・祝日の翌日・毎月第4金曜日・年末・年始・臨時休館日
- ◆観覧料

	一般	大学・高校生
個人	250円	150円
団体 (20人以上)	200円	100円

※小・中学生以下、65才以上の方、障害をもつ方(介護者含む)は無料。

第42回特別展 倭国乱る 卑弥呼の時代の戦争

1997年4月8日(火)～5月25日

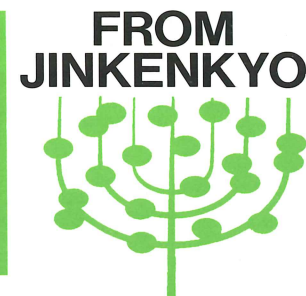
発行 / 吹田市人権啓発推進協議会

〒564 吹田市泉町 1-3-40

電話 (06) 384-1231(代) 内線 2597～8

(再生紙を使用しています)

吹田市 人権協だより



No. 2

平成9(1997)年 3月

'96 人権フェスティバル

主催 吹田市人権啓発推進協議会 共催 吹田市、吹田市教育委員会



世界人権宣言
第二条(自由平等) すべての人間は、生まれながら
自由で、尊厳と権利にたつて平等である。
人間は、理性と良心とを授けられており、互に
同胞の精神ともして行動しなければならぬ。

社会を彩り豊かに

人間は誰でも自分の幸福を求めて生きています。しかし、私たちの社会には人間の尊厳を著しく害するような差別や偏見が存在しています。社会はいろいろな違いのある人々から成りたっており、その違いこそが個性であり、それにこそ人間の意味や価値があり、社会を彩り豊かにするはずなのに、私たちはややもするとそれを差別や偏見の対象にします。

それは私たちが他の人の持つ個性の価値に配慮しないこと、すなわち他人への無関心や無理解から生じているように思います。人間が一人では生きられず互いに助け合い支え合うことでしか生きられないとすると、人間としての尊厳や自由と平等を認め合い、それぞれの人権を尊重することが必要です。多様な人々が共生していくためには、人間存在の尊さや人生の一回性を認識し、お互いに理解し認め合うような人権意識を持つことが最も必要のように思います。



副会長 狩 俣 正 雄



『リバティおおさか 見学会』 関心を高め 輪を広げよう

山二地区委員会

人権問題、この問題を持ち出せば、人は皆、難しい問題と受け止め避けて通ろうとする。

日本ではじめての人権博物館『リバティおおさか』の見学会を町の人々に提起してもなかなか応じてこない現状である。そんな中で見学会を実施しました。事務局のご協力によりバスの提供もあり15人ばかりの参加を見ました。

博物館では、ボランティアのガイドの方のお話を聞き人権についての研修を深め、また、展示物の見学を実施することによりいろいろなことを視覚を通して身につけることができました。人権といってもいろいろな事象があり、決して無関心ではおれないことを痛感しました。

参加した人たちもいろいろな実物や展示品を見て、人権の大切な事を身を持って体験することができました。もっと多くの人たちが見学に参加し、ゆっくりと時間をかけて、知識を広め、実体験をし、そこから得たことを基にして、啓発にかかわっていかねればと、話し合っていました。(今西主基男)



雑草にも個性が

南山田地区委員会

「今まで雑草としてか見えていなかったものが、名前を知ることによって個性が見えてくる。」

南山田地区委員会では、2月20日南山田小学校PTAと共催で「子どもと自然」という演題で、大阪YMCA講師の山崎春人氏を招き講演会をもちました。道すがら採ってきたばかりのやエムグラを手に、山崎先生が身近な植物の名前をあげながら、その遊び方や利用法について話をされました。人権という立場からも含蓄のある話であったように思います。

自然は子ども達の豊かな感性を育み、自然に優しい子どもは他人にも優しくなれるのではないのでしょうか。

さあ、春の野山に自然との触れ合いを求めて飛び出そうではありませんか。(村田紘一)

測ってみよう 身の回りの電磁波

竹見台・南竹見台地区委員会

私たちが今まで気がつかなかった事で危険なことが一杯おこっている。それをとりあえず知ってもらう。知る事で自分たちの子どもや家族や周りの人たちに、こういう事に気をつければいいんじゃないかと言っていけるのではないかと思います。

アメリカやスウェーデンでは送電線の近くに病院や学校があると被ばくしてガンになるかもしれないので施設を遠くに移すとが、新しく送電線をひく時は、距離による規制を作るという事が始まっています。しかし、日本ではまだ何も規制が無く野放しの状態です。

私たち消費者が電磁波を正しく認識した上で変えていけると思う事には一人ひとり声を上げていく事が大切だと思いました。(池島五月)



出 会 っ け 発 見 動 感

車いす体験で 私たちの街をしよう

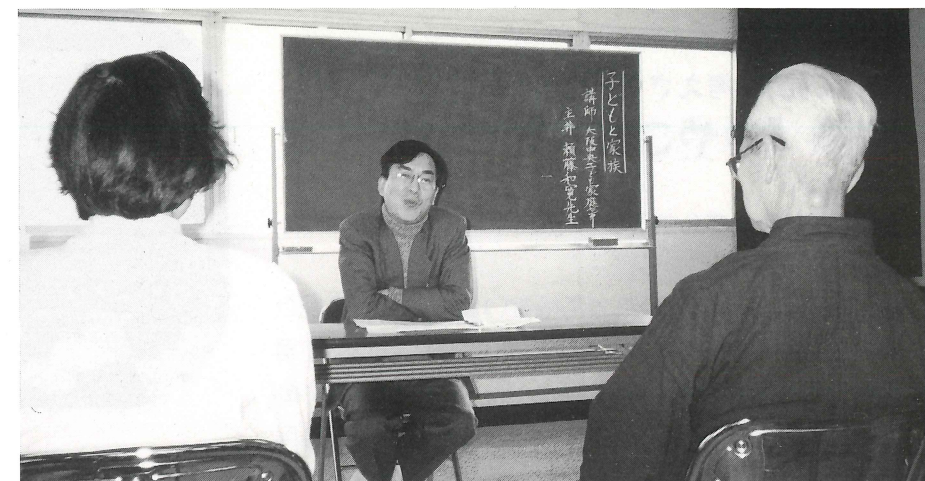
吹六地区委員会

吹六地区では、地域にある障害者共働作業所へ通う障害者等への理解を得る必要性が地域独自の課題としてのこされていることから、障害者問題に重点を置いて活動を行ってきました。

11月30日秋晴れの土曜日の午後、10台の車いすに乗る人押す人、道案内人に分かれて吹六地区公民館前を出発した私たち老若男女の顔ぶれは多彩でした。元気な若者や中学生、共働作業所に通う青年、おじさん、おばさん、校長先生、年輩者……。

しかし、約1時間後ふうふう言いながら車いすとともに内本町コミュニティセンターにたどり着いたときの感想は一樣でした。

「車いすですり難い箇所がずいぶんあるね」「車いすに乗っていると自動車ってものすごく怖いもんやなあ」「車いすですりすい進めないところが公園の中にもあるとは意外だった」「これからは、車いすの人を見かけたら気配りしようと思う」等々……。(福井博夫)



子どもの人権と家族

豊一地区委員会

「子どもと家族」をテーマに、大阪府中央子ども家庭センター頼藤和寛主幹のお話を聞きました。

今は少子化、高学歴化現象にともない子育て情報を求める人が増加してきた。それに答えるべく、さまざまな立場の人が教育についてどんどん書いていく。それらにはきれいごとが多い。時には嘘もある。親はどれが本当か迷っている。でも、失敗は許されないという思いから、これらに頼り、子どもの気持ちも考えず押しつけている……といわれた。

そこには子どもの人権が忘れられている。問題行動が生じる原因の一端はこのあたりにあるのではないかと思います。そのあと、話は子育て建前論の批判に移った。みんなは大阪弁で親しく話しかけられる講師の口調に思わず吸い込まれ、目を輝かせていた。またの機会を待ち望む声があがっていました。

(石田弐二)

